フードバンクSOS

学校が夏休みに入り、給食がなくなる時期を迎えている。全国のフードバンクは、満足な食生活を送れない子育て世帯を支援しようと、毎年この時期に食品配布を集中的に行っている。長引く物価高の影響で、支援を必要とする世帯が増える一方で、家庭からの寄付は減っており、各地のフードバンクは食品集めに苦労している。（樋口絢香）

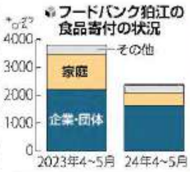
長引く物価高
食品寄付(減) 支援必要な世帯(増)

目立つ空き

「これまでいっぱいだった食品棚に、空きが目立つようになった。地域で4000枚のチラシをポスティングして食品の寄付を呼びかけている」。フードバンク狛江（東京都狛江市）の田中妙幸理事長(71)は、食品在庫について説明する。

同団体は学校が長期休みに入る夏、冬、春に約200戸の子育て世帯に食品を届ける活動を続けている。生活が苦しいひとり親世帯では、給食がなくなる夏休みに、子どもにかかる食費を確保しようと、親が食事を控えるケースが少なくないためだ。

フードバンク狛江では、事務所や倉庫に直接、市民から食品が持ち込まれているほか、市内12か所に設けられた窓口で寄付を受け付けている。昨年はこの窓口に寄せられた食品が積み上がり、「早く回収してほしい」と連絡が来るほどだったが、今年は大幅に寄付が減っている。今年4～5月の2か月間で、同団体に寄付された食品の総量は約2・4㌧と、昨年同時期と比べて3分の2以下にとどまった。家庭からの寄付を受け付けている窓口に限ると150㌔しかなく、昨年の2割ほどにまで減少している。



フードバンク狛江の倉庫では、昨年と比べて空スペースが目立っている（8日、東京都狛江市で）

「値上げで買えない」

「全国フードバンク推進協議会」（東京）が今年6月、協議会に加盟している団体に対して行った意向調査でも、7割が「以前より寄付が減ったと感じる」と答えた。

家庭からの寄付が減った大きな理由は物価高だ。全国の主要なメーカー195社の食品値上げの動向を調査している「帝国データバンク」によると、今年は値上げされる品目数は昨年に比べて減っているものの、「物流の2024年問題」による人件費高騰を原因とした値上げが続いている。昨年の値上げ率平均は15％だったのに対し、今年は17％と、値上げ幅が大きいことが特徴という。

フードバンク狛江の田中理事長は「食品の値上げで、余裕がなくなっている家庭が増えているのではないか。家庭からの寄付は缶詰やお菓子が多く、支援家庭に喜ばれるのだが……」と話す。企業からの寄付は、アルファ米などの主食系や飲料水などが多いのに対し、一般家庭からはおかずとなるレトルト食品などの寄付が多いという。

フードバンク狛江から支援を受けるシングルマザーの女性(46)は、母親の介護を続けながら、四つのパートを掛け持ちして生活費を稼いでいる。女性は「食べ盛りの子どもには空腹を我慢させたくないが、値上げで買えない食品が増えている。支援がなかったらどうなっていたのだろう」と話す。

給食だけ

長引く物価高で家計が圧迫され、新たに支援を必要とする世帯は増えている。同協議会などが昨年、全国のフードバンク85団体から回答を得たアンケート調査では、77％が「支援の要請が増加した」とした。

同協議会の米山広明代表理事(40)は「そもそも、十分な食事を取れるのが給食だけという家庭もあり、この時期に集中的に食品を配布することは非常に重要だ。全国のフードバンクに企業や家庭からの食品の寄付をお願いしたい」と話している。

米国発祥 寄付集め配布

フードバンクは、食品ロスの削減や貧困世帯への支援を目的に、NPO法人などが運営している。製造工程で発生した規格外品を食品メーカーから引き取るほか、更新時期を迎えた企業の備蓄食料などを集め、支援を必要とする個人や団体に食品を届けている。

役所や公民館、コンビニなどを窓口として、使い切れなくなった食品や調味料などを集める活動「フードドライブ」などを通じて、家庭からの寄付も受け付けている団体が多い。

国内272団体

フードバンクは1967年に、米国アリゾナ州で世界で初めて設立され、米国では2018年時点で1300以上の団体がある。

日本でフードバンクが始まったのは2000年頃。子どもの貧困対策の必要性が認識されるに従って、団体は増え続けており、農林水産省によると、15年に55だった団体数は、今年5月時点で272になっている。

海自墜落ヘリ1機発見
鳥島沖海底 印字の番号一致

海上自衛隊の哨戒ヘリコプター2機が4月、太平洋上に墜落した事故で、現場海域の海底を調査していた海洋研究開発機構（神奈川県）の無人探査機「ディープ・トウ」が事故機1機を発見したことが、関係者への取材でわかった。機体に印字された番号で確認した。近くにはもう1機の機体とみられる物体もあるという。

事故は4月20日夜、伊豆諸島（東京）・鳥島の約280㌔東方海域で発生。現場からは、機内の音声や機体の動きを記録する2機のフライトデータレコーダー（FDR）やブレード（羽根）の一部などが回収されたが、機体主要部は見つかっていなかった。

防衛省は海底に沈んでいるとみて、現場海域の水深が5500㍍あるため、同機構に調査を依頼していた。同省はさらに調査を続け、引き揚げが可能かどうか判断する。

営業を再開したのとじま水族館で、水槽を見上げる来館者（20日、石川県七尾市で）＝細野登撮影

おかえり！のとじま水族館
地震で被災 一部再開

能登半島地震で被災し、休館していた石川県七尾市の「のとじま臨海公園水族館」が20日、一部施設で約半年ぶりに営業を再開した。県内外に避難していた生き物たちも戻ってきて、待ちわびた家族連れや地元住民らが次々と訪れた。

のとじま水族館は、元日の地震による断水でボイラーを動かせなくなり、配管なども損傷。水温や水質を保てず、ジンベエザメ2匹を含む4000匹以上が死んだ。急ピッチで復旧作業を進め、夏休みシーズンの再開にこぎ着けた。

開館の式典では、水族館職員や来館者らが「がんばろう！　能登」と印刷された風船約100個を青空に飛ばして再開を祝った。

施設前には40人以上が行列をつくった。地震前の約400種約2万2000匹には届かないが、県内外に避難していたペンギンやウミガメなどを含む約210種約7500匹が展示された。館内には「お魚が来たよ」「サメ発見！」などと子どもたちの元気な声が響いた。

飼育員の釘宮ひなたさん(25)は「久しぶりにお客さんの笑顔を見られてうれしい。イルカとアシカはまだ避難中だが、『おかえり！』と迎えられるように、環境作りを頑張りたい」と意気込んだ。境谷仁館長は「一日も早い全面再開に向けて努力していく」と話した。

自宅が被災し、妻の実家に避難している同市矢田町の会社員石田幸次さん(56)は「家族で何度も訪れたアルバムのような場所。避難していたペンギンに会って癒やされたい」と笑顔を見せた。

トラックと衝突 助手席女性死亡
茨城

20日午前2時50分頃、茨城県かすみがうら市下稲吉の国道6号で、同県土浦市神立町、アルバイト富山さん(21)の乗用車と、対向の同県行方市沖洲、会社員幡谷信也さん(47)の大型トラックが衝突し、乗用車の助手席に乗っていた富山さんの母親で派遣社員富山ゆかりさん(45)が腹部を強く打って死亡した。富山さんも胸や脚に重傷を負った。トラックの幡谷さんにけがはなかった。同県警土浦署が事故原因を調べている。

アパート火災 焼け跡1遺体
埼玉

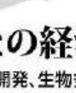
19日午後8時頃、埼玉県深谷市西大沼の木造2階アパートから出火、2階の一室を全焼した。火は約3時間後に消し止められたが、焼け跡から性別不明の1人の遺体が見つかった。この部屋を借りている40歳代男性と連絡が取れておらず、深谷署が遺体の身元や出火原因を調べている。

企画・制作 読売新聞社ビジネス局　広告

COLOMBIA Independence Day

コロンビア、日本との経済分野での関係強化へ
持続可能な開発、生物多様性の保護の推進も

コロンビア共和国 駐日臨時代理大使
アンヘラ・ドゥラン

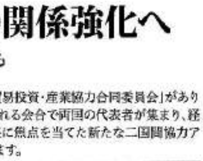


本日7月20日、コロンビア独立214周年を祝うにあたり、政府と国民を代表して、天皇皇后両陛下並びに天皇家の皆様、そして岸田総理大臣閣下、日本国民の皆様に、心からのご挨拶を申し上げます。

ペトロ大統領政権の優先事項のひとつはアジア地域との関係強化です。戦略的パートナーである日本の無償資金協力の支援で、二国間の経済関係が一層強固になっています。

現政権では初の両国間の政策協議が今週実施され、二国間アジェンダの確認やその多様化を中心に関係強化へ大きく寄与する結果となりました。さらに、近年の新たな取り組みの中で、日本とコロンビア間の「二国間貿易投資・産業協力合同委員会」があります。9月にボゴタで開催される会合で両国の代表者が集まり、経済分野において双方の利益に焦点を当てた新たな二国間協力アジェンダについて協議されます。

一方で、コロンビアは1平方㌔・㍍あたりに対する生物多様性が世界で最も豊富であり、環境保護を強く支持し気候変動対策に関わる大目標を掲げ、世界的にも評価されています。本年10月21日から11月1日、サンティアゴ・デ・カリで開催される「生物多様性条約第16回締約国会議（COP16）」では「Peace with Nature（自然と共存する平和構築）」をテーマに持続可能な開発実践の促進、生物多様性の保護を推進します。


©FONTUR　シエラネバダ・デ・サンマルタ、ユネスコの生物圏保護区（1979）

会議では、2022年COP15で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の達成と今後の課題についても議論します。この枠組みでは、生物多様性の保全と持続可能な利用を実現するための積極的な計画を定め、2050年までの目的を4項目、2030年までの目標を23項目掲げました。コロンビアは、自然と平和の連結をこの国際会議の優先事項の一つに設定しています。

独創文化を創造する
株式会社ユニオン
UNION ARTWARE
株式会社ユニオン

sojitz
New way, New value

コロンビア共和国の独立記念日をお祝いします

「なるようになる」が
座右の銘になりました。
（北海道、79歳）

全国から絶賛の声続々！

題名にひかれ、
初めて養老先生の文を読みました。
楽しくて、笑ってしまう。
（東京都、87歳）

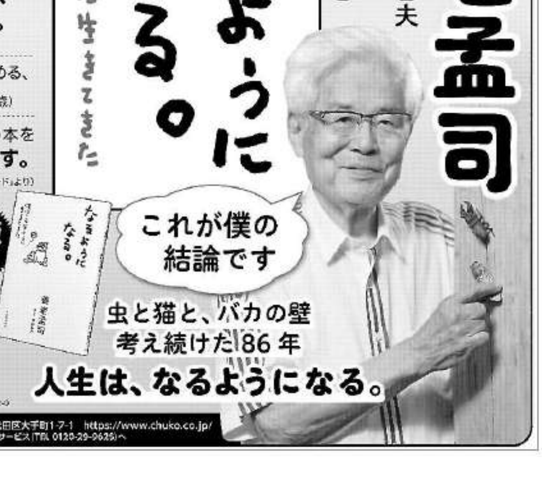
自分には全くない考え方、
世界を知ることができる。
（東京都、39歳）

先生の思考遍歴をまとめて読める、
記念すべき一冊。（佐賀県、86歳）

生きづらい今の時代、先生の本を
読み、生きる力にしています。
（愛知県、76歳）　（「愛読者カード」より）

「養老先生への50の質問」つき
重版続々
・最後の晩餐で食べたいものは
・自分をバカだなと思うことはありますか
・死についてどう思いますか
……など

自由闊達、痛快無比！
初の自伝
養老孟司
聞き手 鵜飼哲夫
なるようになる。
僕はこんなふうに生きてきた



これが僕の結論です
虫と猫と、バカの壁
考え続けた86年
人生は、なるようになる。

単行本●1540円（10%税込）

中央公論新社　〒100-8152 東京都千代田区大手町1-7-1　https://www.chuko.co.jp/